



①要素技術の粋を集結した装置
②生産設備の基幹部品を製作
③先進ロボット技術を駆使
④生産設備自動化の課題を解決

お客さまにとって、最適なFAテクノロジーを創造し、提案する
先進の技術力を長年の実績を駆使して、あらゆる産業界へ、最適なソリューションを提案します。

たいようきかいせいさくしよ
株式会社 太陽機械製作所



代表取締役社長
やなもと よしひろ
柳本 善弘さん



さまざまな取り組みを通じて
社員みんなが成長できる土壌作りを

日々の取り組みの中で、社員との会話を大切にしています。成功や失敗にこだわらず、1つの取り組みや行動から何かを感じることが大切だと、社員には伝えています。結果は最終地点に到達しないとわかりません。経験からさまざまなことを感じ、反省することが自身の成長につながります。特に海外では日本ではできない経験をすることが多くあるため、貴重な事柄を学ぶチャンスがたくさんあります。数多くの人と出会い多様な価値観を学び、共通の目標に向かって努力する姿勢を大切にしながら、社員全員が成長できる企業にしたいと考えています。

- 主な事業内容
各種生産ラインシステムなどの企画、開発、製造、販売
- 主な取引先(納入先)
電機メーカー、自動車メーカー、医療メーカーなど

住 所 / 〒570-0034
大阪府守口市西郷通2-18-15
TEL / 06-6991-3737
FAX / 06-6991-3753
創 業 / 昭和29年1月
設 立 / 昭和34年4月
資本金 / 3,000万円
従業員 / 250名

<http://www.taiyo-inc.co.jp/>

ものづくりの発展を支える 設備機械の総合メーカー

事業内容と沿革

幅広い分野のFAソリューションに貢献

「太陽機械製作所」はFA(工場自動化)機器の開発や製造を手がける設備機械メーカーだ。昭和29年の創業以来、家電をはじめ自動車や食品、情報産業機器などあらゆる産業分野の生産合理化と省力化に貢献してきた。「お客さまにとって最適なFAテクノロジーを創造して提案する」という企業理念のもと、最先端技術を駆使して独自の製品開発を進めている。

ビジネスの方式は主に顧客からの依頼に基づく受注生産。得意先の業種は幅広く、電機や自動車関連メーカー

を中心に、半導体や液晶関連、太陽電池を含むエネルギー関連や血液検査などのメディカルシステムなど、さまざまな分野に積極的に参入している。一方で、自社製品やOEM(相手先ブランド生産)も手がける。昭和37年には創業当時から注力していた電池の生産設備を開発。今も現役で稼働しているという。最近では、フラットパネルディスプレイ製造装置なども手がけている。

強み

国内外で展開する FAの トータルソリューション

同社の強みは、FA機器の構想から据付までの工程を一貫して行う総合力にある。60年以上培ってきた実績を生かし、顧客の抱える課題をトータルソリューションで解決する。生産設備は会社によって異なるため、顧客からの要望は多岐にわたる。一品一様での対応が求められ、顧客ごとにルールや仕様はさまざま。

難易度が高い要求を幾度となく乗り越えてきた経験から、顧客の深い要望にも柔軟に対応し、新規生産ラインの導入や生産能力の向上など、最適なソリューションを提供している。

展開する事業エリアは国内だけに留まらない。全世界を視野に収め、グローバル企業を目指した海外戦略を進めている。実際、世界のものづくりの最前線で同社製のFA機器が稼働している。平成12年には中国に工場を設立し、アジアや北米、欧州へもネットワークを広げている。

一気通貫

最先端の ものづくり現場で FA機器が稼働

あらゆる業界のFAの課題を解決してきた実績は、同社の高品質なサービス体制を支える礎となっている。顧客からの依頼を受け、まずは構想を練るところからミッションが始まる。図面の設計や機器に組み込む部品の製作、組立調整からアフターサービスまでのすべての工程を担う。超小型の精密部品から大型ライン設備の組立まで幅広く対応できる。この柔軟さと一気通貫の対応力で、多くの顧客から信頼を勝ち取ってきた。

熟練の腕をもつ技能者により、ミクロン単位での部品加工が可能だという。さらに継続して新規設備を導入し、屈指の加工精度を提供できる体制も維持している。組立工程では、熟練の技術者たちが高精度の部品を一つひとつ組み立て、完成度の高いFA設備を作り上げる。同社が手がけるFA機器は、国内外の最先端の電子機器や自動車の生産ラインで広く導入されている。

今後の展開

新規分野開拓や 最新鋭FAシステム 開発に注力

今後さらにニーズの高まるエネルギー分野やメディカルシステム分野など、FA機器の種類を増やし、参入する事業展開の幅を広げていく。将来的な少子高齢化を見据え、働き手の不足を視野に入れ産業用ロボットを活用した生産システムの開発など、最先端分野にも注力する構えだ。

FA機器を手がけてきたことで、ロボットによる生産設備を開発する要素技術は十分に持ち合わせている。だが、複数のロボットを連携させるには複雑で膨大なソフト制御が必要となる。さらに、IoT(モノのインターネット)技術による制御や、センサー技術による認識機能の向上も課題となりそうだ。ソフトウェア開発技術者の確保も競争が増す中、先端技術開発への投資も積極的に行い、今後も高度なFAソリューションを提供し続ける体制を築く。